

NPO法人全日本シニアアンサンブル連盟

全国大会in取手大会

楽しく# 仲よく+ いざいざと♪

第16回 全国大会 コンサートin取手

2022年 5月15日 (日) 取手市民会館 大ホール

第16回全国大会in取手 実行委員長 取手シニアアンサンブル 宮崎 正

令和4年5月15日(日)、延期、延期となつていました第16回全国大会in取手が催されました。皆様には果たして本当にできるのか?と思われた方もおられたかと思えます。ここに無事完遂出来ましたことはひとえに、岡村斉能理事長、高橋昭五副理事長、松永恒文副理事長は勿論、全シ連の理事の皆様、快くステージマネージャーを引き受けて下さった広報の濱田文宏様、茨城県連盟の理事の皆様、取手SEの有志など、皆様の御陰と申しております。心から厚く御礼申し上げます。

ここでは視点を變えて、全国大会をご覧になりました、お客様お二人の感想を書かせて頂きたいと思えます。1人目の方は以前に私の勤めていた職場からの友人です。お齡は72歳男性、独身、なぜ独身かと申しますと、お歳を召されたお母様と、ご兄弟にお体の不自由な方がおられ、仕事をしながらお世話をされていたため残念ながら結婚することができませんでした。が、今はお二人ともお亡くなりになり、お一人での生活をされています。少しでも喜んでいただけたらと思ひ、今回のご案内を差し上げましたら、是非行きたいとのことでした。会場でお会いすることはできませんでしたが、後でお聞きしたところ、12時30分の開演からJGカルテットの終わる時まで一度も椅子から立つことなく、「聴き入ってしまった」と仰っていました。ご自分は雨の日以外は毎日家の前の草取りをしていて、今までは生活がモノトーンのようにでしたが、皆様の演奏を聴いてカラーの色になつたように感じます。また、演奏会を聴いた帰り径、嬉しくてお酒は飲まないのですが、居酒屋に入り、モズ煮込み定食を食べ、取手の街が好きになり思わず「取手の街よ、ありがとう」と小声で言ってしまうました。と仰ってくださいました。又、1ヶ月後にお電話を差し上げましたら、お世辞ではなくまだ、皆様の演奏の余韻が残っています。あれから、朝起きるのが楽しくなりました。と仰ってくださいました。「13楽団の皆様ありがとう」と声を大にして言いたい、あれから自分の人生感が良い方に変つたように思います。とのことでした。

もうお一人の方は90歳の男性の方です、会場に手帳をお忘れになり、ご住所とお電話番号が書いてありましたので確認をさせて頂きお送りさせて頂きました。その方が仰るにはまじかに奥様を亡くされたとのことでした。チラシ等で、全国大会のことを知り。当日は、妻の写真を抱き一緒に聴かせて頂きました。妻も音楽が好きでこんな素敵な演奏会を一緒に聴けたら良かったのに、と仰っていました。

ご自分も家にあつたピアノを弾きはじめ「ちようちよ、ちようちよ」をやつと両手で弾けるようになったんです、と弾んだ声で仰っていました。もっと早くからはじめていれば良かったと仰るものですから、物事を始めるのに遅いも早いもないと思ひます、「思い立ったが吉日」と云うじゃないですか!と僣越ながら申し上げますところ、仰る通りですね。これからも練習に励みます。と言ってくださいました。

勿論、私たちプレーヤーも人生があります。が、お聴きにきて下さつた、お客様もお一人々人生があります、つらいことも楽しいことも多々あります。さだまさしの「孤悲」(こい)と云う曲の歌詞の中に「私は 何ができるだろう あなたの幸いのために」と云うフレーズがあります。日頃の小さな出来事もあります。大層なことを申し上げるようですが、ウクライナとロシアの事、米中間係、ミャンマー、にとどまらず国々でいろいろ問題が発生しています。私たちは音楽を通して大いに、ご自分の心と体の健康、そして、演奏を聴いて下さる方の心と体の健康を願ひ これからも活動していきたいと切に願うものであります。

最後になりますが、ご後援を戴いた団体の皆様、ご協賛を戴いた各皆様に心より厚く御礼申し上げます。

